

自己評価報告書

平成23年4月27日現在

機関番号：32406

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730345

研究課題名 (和文) 在外日系児童の文化的帰属意識について

研究課題名 (英文) Cultural References for the Children of Japanese Origin

研究代表者

岡村 圭子 (OKAMURA KAYKO)

獨協大学・国際教養学部・准教授

研究者番号：70383205

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：社会学、帰属意識、異文化、移民

1. 研究計画の概要

本研究では、日本国外で育つ／育った児童の日本語学習環境に着目し、かれらの日本語接触環境を調査する中から、文化的・言語的帰属意識 (アイデンティティ) がいかんして構成されているのかを探り、グローバル社会における移民、ディアスポラ、国籍等の概念を社会的に再考することがねらいである。

2. 研究の進捗状況

日本国内外において、資料収集と文献研究を進めている。一昨年度から今年度にかけては、ヨーロッパ日本語教師会のシンポジウムやその他の研究会等で現場の教師らの声を聞き、近接する学問分野の研究者や、同じ問題関心を持つ日本語教師らとのネットワークづくりを行い、また各国で用いられている新しい教材や取り組み、その問題点、言語教育の国家的補助制度の詳細について情報を収集できた。それによって、あらためて本研究が射程におくイシュー、すなわち狭間の文化圏に生きる子どもたちの文化的・言語的帰属意識とローカル・アイデンティティとの関係性への着目が重要だということを確認できた。

その一方で、毎年、在外日系児童・生徒と親や教師への聞き取り調査もデュッセルドルフで行っている。日本語の言語的な特性やドイツにおける日系児童の社会的・文化的背景が、かれらの言語環境にきわめて深く影響していることをあらためて認識すると同時に、他の国・地域での興味深い事例を知ることが出来た。

昨年度からは、高度に発達したメディアテクノロジーの影響 (高度情報社会における文化的帰属意識の問題) も視野に入れた資料収

集・分析を行っているので、今後はそういった点を中心に研究を進めてゆきたい。

主な成果の発表としては、論文について Nationality and Local/Cultural Identity: The Japanese-German Children in Düsseldorf、および「くに」と言葉——国家の狭間に育つ児童の現代的帰属意識 (いずれも下記5. に詳細) の2本を刊行し、さらに社会学の国際学会での発表も積極的に行い、同様のテーマに関心を持つ海外の研究者らとの連携を深めてきた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

達成度については、資料収集・整理、考察・分析、成果発表、いずれもおおむね順調に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

日本語の言語的な特性や海外における日系児童の社会的・文化的背景が、かれらの言語環境にきわめて深く影響していることをふまえたうえで、今後はデュッセルドルフでの調査を継続しつつ、日本における外国人児童の事例も参照・比較検討しながら同様のテーマに取り組みたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計3件)

① 岡村圭子 Nationality and Local-
/Cultural Identity: The

Japanese-German Children in Düsseldorf、

第 17 回国際社会学会 (ISA) 世界大会、
2010. 7. 16、Gotenbun (Sweden)

② 岡村圭子 The Created Local Cultural
Unit: How *YaNeSen* Has Been Regarded a
Local Culture?、第 39 回世界社会学機
構 (IIS) 世界大会、2009. 6. 12、Yerevan
(Armenia)

③ 岡村圭子 Globalized “Japanese”
Culture and Its Originality,
Hybridity and Nationality: What Makes
Localization Enforce
The 38th World Congress of the
International Institute of Sociology
2008. 6. 29、ブダペスト(ハンガリー)

[図書] (計 2 件)

① Kayko OKAMURA (Nobuko ADACHI 編)
*Cambria, Japanese and Nikkei at Home and
Abroad: Negotiating Identities in a Global
World* (第 4 章 “Multicultural Identity in
a Global Society: Locality and Nationality
of Contemporary Children of the Japanese
Diaspora in Germany” を担当) 2010 年、350
ページ (うち 87~104 ページ 担当)

② 岡村圭子 (増谷英樹 編)
有志社、『移民・難民・外国人労働者と
多文化共生』(第 II 部、第 5 章「多文化
共生社会における「くに」と言葉——国
家の狭間に育つ児童の現代的帰属意識」
を執筆) 2009 年、250 ページ (うち 179~1
98 ページ 担当)